

平成29年度第2回伝国の杜運営協議会議事録

1 開催日時 平成29年12月19日(火)午後1時30分～午後2時45分

2 開催場所 伝国の杜2階 第2小会議室

3 出席者

(委員)

堀江昭浩(置賜地区高等学校教頭会会長)

磯部晃輝(中学校教頭会会長)

佐藤 繁(小学校教頭会会長)

小川正昭(一般社団法人米沢観光コンベンション協会専務理事)

布施賢治(米沢女子短期大学教授)

小島光江(小島洋酒店監査役)

山根秀樹(米沢古典塾主宰)

前山みゆ子(伝国の杜サポーター、おしょうしなガイド) 計 8名

(事務局)

公益財団法人米沢上杉文化振興財団

佐藤広明(理事長)、菅野智幸(常務理事)、角屋由美子(学芸主査)、

花田美穂(学芸主査)、阿部哲人(主任学芸員)、遠藤友紀(主任学芸員)、

佐藤正三郎(学芸員)、安部理絵(主任舞台企画員)、藤元周平(舞台企画員)、

生熊郁子(主査)、寒河江大輔(主任)、小松史織(主事) 計12名

欠席者

(委員)

石川ひろえ(伝国の杜ファンクラブ)

長谷川茂則(米沢フィルハーモニー管弦楽団代表) 計 2名

4 開 会 (生 熊)

5 あいさつ(理事長)

7月の協議会では二つの課題について御提言や御助言をいただいた。本日は、御提言等を受けて取り組んできたことや現段階での成果と課題を報告して第一の協議題とし、指定管理施設や各種事業の今年度ここまでの管理や運営についての財団内部評価を第二の協議題として提案するので、さらに改善するためのヒントや御助言をいただきたい。三つ目に、来年度の博物館及びホールの自主事業について説明するので、それらについても御意見等をいただきたい。

協議題に直接間接に関わることについて数点報告する。今年度博物館では、他県の

複数館と連携・共催して、二つの規模の大きい特別展を開催した。春の「戦国時代展」と秋の「上杉家の名刀と三十五腰」展はいずれも好評を博し、年度入館者数を押し上げている。一方、ここ2、3年増加傾向にあった体験学習室の利用が減っており、その原因等を精査している。

ホール自主事業では、市民ミュージカル「梵天丸」や「春風亭昇太・林家たい平二人会」が大変な人気で大入りとなったが、それ以外の演奏公演などでは観客の入り伸び悩んだ。市民への広報・宣伝をさらに積極的に行っていく必要がある。

ミュージアムショップについては、展覧会に対応して売り場を移動・拡大して取り扱い商品を増やし、ほぼ目論見通りの収益が見込めそうな状況にある。

また、今年の9月13日、博物館の移転・開館から丸16年を迎える直前に、博物館展示室入館者300万人達成セレモニーを挙げてきたことは喜ばしい限り。引き続き、米沢市民のアイデンティティを育む施設として市民の皆さんに愛され、上杉氏研究の拠点としても信頼される博物館をめざしていきたい。

伝国の杜の西側にある置賜の庭は米沢生物愛好会に折に触れて手入れを依頼しているが、もう何年も樹木の剪定や垣根の雪囲いもできなかったことから、ここ数年は樹木は伸び放題、ウコギの垣根は壊滅状態であった。今年度ようやく、庭園業者にお願いして、置賜の庭としての風情と美観を取り戻すことができた。市民の皆さんにも、ぜひ親しんでいただきたい。

6 議 事

運営協議会要綱第6条に基づき、小川正昭会長が議長として議事を進行。

(1) 第1回伝国の杜運営協議会の意見要望に対する取り組みについて（資料1）

資料1について、事務局長から概略を説明した。

(議長)

それぞれご提案をいただいていた委員の方からコメントをお願いしたい。

1) 米沢市上杉博物館や置賜文化ホールで観たいテーマや公演について

(磯部委員)

博物館展示は資料が一番なので難しいとは思いますが、上杉が入部する以前の米沢についても興味がある。

(議長)

次期5ヶ年計画の中で検討してほしい。

(山根委員)

プロの能の公演に費用がかかるのはわかる。米沢以外の地域へのアピールもあってもよいのではないか。本格的な能舞台があるのは周辺では米沢だけなので、例えば、

高速道路も開通した福島市、近くの喜多方市や会津などに積極的に周知すると入場者も増えるのではないかと。

県外への宣伝は現在どうなっているか。

(事務局)

県外に関しては、積極的な周知までにはまだ至っていない。「Jazz Café Live」では、福島など近隣からアーティストを呼んだりしている。

金剛流能公演については、金剛流宗家をお呼びしての公演も考えている。喜多方、会津、福島などへのPRも検討していきたい。

(議長)

東北自動車道の開通に伴い、コレクション展のPRもされたようだが。

(事務局)

安達太良サービスエリア下り線で、現在開催中の初公開コレクション展のポスターの掲示とチラシ800部の設置を行っている。チラシはあまりはけていなかったが、ポスターは目立ったところに貼っていただいたので、相当見ていただけたのではないかと。その効果もあるのか、東北自動車道の開通後、この時期の展覧会入館者数は例年よりも多くなっている。すでに初公開展に関しては約9,600名の入館者数となっており、目標値を上回っている。高速道路の効果は大きいと考えている。PRについては、まだまだ検証していかなければならない。

(小島委員)

仙台市内の各家庭に配布される無料の雑誌に刀剣展の情報が掲載されていたが、こちらで掲載した広告なのか。大変よい宣伝効果があると思う。

(山根委員)

福島、喜多方、会津にも謡曲のグループなどがあると思うが、愛好の団体に個別にPRすると反応がよいのではないかと。

(事務局)

山形県内でも、能楽の愛好会の催しものを年一回こちらの能舞台で行っている。他県でも同じようなことはあると思うので、PRしていきたい。

(議長)

山形でも「ヨミウリウェイ」などのいくつかのタウン誌がある。取材に来た時には、観光コンベンション協会からも情報を発信し活用していく必要がある。

2) ミュージアムショップ事業について

(布施委員)

流行を取り入れることで売上は上がるが、流行のものはメーカーなどとの調整が難しい面もある。様々な工夫をし、取り入れていくことも重要と思う。

(前山委員)

博物館発行の図録は内容も豊富で、立派で、値段が他のものと比べるととても安い。特別・企画展図録があるのは嬉しいが、ギャラリートークやコレクショントークの内容などを簡単にまとめた、図録とまでいかないまでも資料集のようなものがあればさ

らに嬉しい。

(堀江委員)

セット販売などは無理のない範囲でやってもらえればいい。

(山根委員)

取り組みや工夫が売上アップにつながればよい。

3) その他

(前山委員)

「市民感謝デー」など、出来るだけ取り上げていただければと思う。

(小島委員)

金剛流御宗家の方がお出ましともなれば、米沢に一泊して米沢を楽しみながら、金剛流御宗家様の謡を観ていこうというような気持ちになる同流派の門下生もたくさんいるのではないだろうか。

個人的にも、御宗家様のお出ましというと、どんなに遠くでもそれを楽しみに出かける。観光コンベンション協会など、どこか協力してくれるようなところと一緒に連携してプランを企画できればよい。

(2) 平成29年度財団運営中間内部評価について (資料2)

資料2について、事務局長から概略を説明した。

(堀江委員)

多岐にわたって評価が行われている。少しでもゆとりを持って、職員がそれぞれ持っている強みがより伸ばされるよう、評価結果を活かしていただいたい。

(佐藤委員)

大変努力されており、ホールの入場者数も平均してアップしてきている。市民の関心が高いものと、市民に関心を持ってほしいものを上手くやっているとよいのではないか。

また、インターネットを活用し、ツイッターを利用して博物館と観衆の距離を縮めたこともあったようなので、IT関係の活用促進をしていけばいろいろな方に知ってもらえるのではないかと期待もこめられる。

(議長)

SNS活用、ツイッターの新規開設とあるが、最近はフェイスブック、インスタグラムなどもあり、幅広く利用している中で、友の会(伝国の杜ファンクラブ)や伝国の杜サポーターの方たちに協力してもらえないことはないか。会員の中にSNSが得意な方がいれば、お願いしてPRできるとよいのではないか。

(事務局)

大学生などの若いファンクラブの会員も増えているが、入会者の6割以上は60歳

以上の方である。

(佐藤委員)

ネットショップを見てみたが、ゲーム「刀剣乱舞」の商品は売り切れになっており、大変評判が良かったようだ。このような取り組みを増やせていけると、商品の売上にもつながるのではないかな。

(布施委員)

バランスよく入場者数を考えなければならないから大変である。難しそうなもの、高級そうなイベントでも、こういうことで貴重で、勉強すると分かるというようなイベント感を出すと理解しやすいのではないかな。

座の文化伝承館の茶道愛好者の利用が少なくなっているようだが、短大で茶道部の顧問をしており、茶室利用の予約は取れそうでなかなかとれないということも学生から聞く。なかなか利用できない場所というイメージがあるようだ。ざっくりぼらんに利用できれば、若い茶道部や華道部の人たちなども気安く利用できるようになるのではないかな。

(小島委員)

仙台市に「緑水庵」という茶室を中心に市民に貸し出ししているところがあり、抽選にもれるほど人気が高い。利用料金制度、規約などを見直すと、利用者はたくさんいるような気がする。緑水庵は市の管轄であり、月2回、庭園を開放し茶室で茶菓子を振る舞うなどしている。その経費は市が補助し、茶道関係者にボランティアを依頼しているようだ。一般市民が多く利用するので、自分たちもそこを利用しようと考えの方が増え、人気が高まっているようだ。

(山根委員)

評価項目の中の「地域の小中高生50名招待」とは、具体的な取り組みはどんなことをしているのか。野球でもサッカーでも、小さい子供たちを招待し、育成することにつながっていく。子供が来れば親も来るということもある。

(事務局)

上杉家先代上杉隆憲様の奥様である敏子様を冠に掲げている上杉敏子基金事業がある。上杉家の方々から用途を特定した形でご寄付を財団が預かっており、毎年最低年二回の財団自主事業の中から指定いただき、その事業に対して親子（置賜在住か、置賜通学中の小学校～高校の学生と、その保護者）を招待している。一公演につき10組20名、資金に余裕がある時は20組40名を招待し、チラシで募集している。しかし周知方法がチラシのみであり、周知しきれず定員割れで全員当選などということもみられる。上杉家からは周知方法を改善していきたいというご意見を預かっている。

それだけでは年間50名には達しないので、その基金からだけでなく、外部からの融資での招待も考えているが、現状では上杉敏子基金を活用した人数が年間50名の大半である。

(山根委員)

その基金を活用せずに招待することはできないのか。

各学校から何名招待するなどできれば、学校に対する宣伝にもなるのではないかな。

(事務局)

実際は行っている。公益事業といえどもそれなりの収入をあげなければ財団経営を圧迫するので、バランスを考えながら運営している現状。AKASAKA木管五重奏団公演時は、現在中学校の吹奏楽が活発であることから、上杉敏子基金の他に学校を指定して招待するなど、事業ごとの入数を勘案しバランスをとりながら行っている。

(前山委員)

山形県能楽の祭典の入込数が下がっているようだが、当日は入場者が少なく、もったいないと思った。チラシを多く配布したり、安価な入場料設定にしたりすれば、購入者は購入したから観にいかなければならないという考えになるのではないか。

(3) 平成30年度米沢市上杉博物館・置賜文化ホールの開催予定事業について

(資料3・資料4)

資料3、資料4について、事務局長から概略を説明した。

(議長)

全体を通して、それぞれ委員の皆様にご意見などいただきたい。

(前山委員)

今年良かった点を二つあげると、一つ目は伝国の杜サポーターと伝国の杜ファンクラブ会員が研修に行かせてもらえたこと。個人で行けば学芸員の話など聞くことができないが、しっかり説明を受けてから観ることができて良かった。

二つ目は、今年置賜の庭が整備されたこと。おもしろいなガイドをしていて置賜の庭を案内することがよくあるので、とてもきれいになっていて良かった。

(山根委員)

合唱公演はおそらく人が入るだろう。大学でも慶応大学や明治大学など、とても上手なところがある。天元台の合宿などとコラボしてやるとよいのではないか。検討してほしい。

(布施委員)

努力してがんばっていただいている。

歴史をやっている視点からしか意見を言えないが、展示のうえでも「地域」という言葉が入るとよいのではないか。これから東京オリンピックもあるので、米沢や山形が輩出したアスリートとか運動家の歴史や成績などを紹介する展示もよいのではないか。

(小島委員)

入館料はすべて米沢市の収入になるわけだが、これだけのことを皆さんが前向きにやっており、それぞれの専門をもち集中したいのに、米沢市や地域のためにこれだけの仕事をこなされている。運営協議会を開くことによって、さらに前向きに活動していこうという、財団が持つ姿勢がとても大事だと思う。

いろんな良いものを計画し実行していれば、いろいろなところに繋がっていく。

応援者は内部だけではなく、外部にもたくさんいる。いろいろなものを利用し、よいものを発信していけば、応援者が増えてくるのはまぎれもない事実であり、努力を積み重ねていくというのは大切だと思っている。

開催中のコレクション展の展示資料の中に「小島長五郎商店」が載っており、今と変わらない今町の場所にあった。やはり「地域」というのは嬉しい。みんなに紹介できると思った。

(堀江委員)

学芸員の方は、それぞれ得意な分野と専門をもっていて、今も夜遅くまで勉強されているということも聞いたことがある。強みの部分を極める、このことであればこの人に聞くと分かるということまで、イコールで結ばれるところまでいっていただくと、館全体の強さになるのかと思う。

高校で例年、職業人から語っていただくということで、角屋学芸員に来ていただいている。触発されて、上の学校で歴史や文学を学んでみようという学生も出ている。これからも地域の高校でリクエストがあった場合は協力をお願いしたい。古文書の読み方の過程とか、一つの事柄について、展示ができるまでの段階、プロセスの部分は生徒たちにとって興味深いことではないかと考えている。学芸の方に聞けるような場面があればありがたい。

(磯部委員)

兜山に登る機会があった。兜山から見た置賜の風景は素晴らしいものであった。新年度、「直江兼続」の展覧会もあるということなので、兜山などを再評価していただければと思う。市民、特に若い人にとっては、兜山もだいぶ印象が薄くなってきているのではないだろうか。

(佐藤委員)

学校と博物館の関係はだいぶ定着し深まってきている。社会科見学、職業体験、ワークショップ、教育普及事業での学校訪問では大変お世話になっている。さらに定着をはかりながら、博物館と学校のつながりを深めて、子供たちがより博物館に興味を持ってくれるように、さらに推進していきたいと思う。

小学校の現場では新しく英語が入ってきたり、道徳が普通教科として扱われるようになり新しい学習指導要領で時数が増えたりなど、なかなか外からの授業を入れにくくなっている状況があり、受け皿の枠が狭まっているのが現実である。より有益で授業と関連するものを探って、博物館を利用していけるようなやり取りができるようになるとうい。

内部評価の、郷土作家の資料収集の項目で、資料の調査などに十分な時間がかけられないという状況であるとのこと。レファレンスとして米沢の文化を蓄積していく部分といったところにも、我々がサポートし、充実した仕事ができるようにできないのかと思ったので、課題として考えていきたい。

7 閉 会 (生 熊)

8 閉会后展示見学

米沢市上杉博物館初公開コレクション展

「上杉家ゆかりの名品と地域の歴史を語る資料」

展示案内：学芸員 佐藤正三郎